

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

今は、社会の根底が変わった 月尾 嘉男（東京大学名誉教授）

1. 1993年にクリントン大統領とゴア副大統領が情報社会をつくる政策を掲げ、日本もNTTはじめ情報社会を新たにつくると発表しました。それがちょうど日本が落ち目になった時期の最初です。一変した社会の仕組みに対応が遅れ、現在のような状態になったと思います。
2. 明治時代が始まって以来、日本では工業社会に合わせる政策が採られてきました。典型的なのは教育です。それまで寺子屋や藩校など、各地に異なる教育システムがあったのですが、国定教科書を用いて全国一律の教育をしてきました。この画一性を追求し続けてきたことが大成功につながったわけです。
3. つまり、120年間の工業社会では「同じ」であることに価値があったのです。同じものを大量に作っていけば価値が増えました。しかし情報は違います。1番目の情報には価値はありますが、2番目以下は同じものでは価値がありません。つまり社会の根底が変わった。その途端に日本のシステムが通用しなくなった。現在は、そういう状態ではないかと考えます。

(参考:「日経ビジネス」2021年9月27日号)

経営者のための経済学

浸透が遅れる日本のフェアトレード

1. フェアトレードとは、開発途上国の生産者から農産品などを適正な価格で継続的に購入することで、途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。近年、国連のSDGs（持続可能な開発目標）やエシカル消費（倫理的消費）が注目される中、フェアトレードの意義も見直されている。
2. 国際フェアトレードラベル機構（F I）や、世界フェアトレード機関などの国際認証機関の認定を受けることで、フェアトレード商品を高付加価値商品として扱うことができる。しかし、F Iが公表した2017年の日本のフェアトレード商品小売売上高は、ほかの先進諸国と比べて20分の1から数分の1程度。国内知名度も5割程度にとどまる。

(参考:「週刊東洋経済」:2021年10月16日号)

人事・労務について

在宅勤務が定着する（ホワイトカラー）

1. いったん広がった在宅勤務が、定着するかどうか注目が集まっている。総合的に考えて、ホワイトカラーの職種に関していうと、コロナ後には週数回職場に通勤しながら、あとは在宅勤務という働き方が定着していくものと思われる。これはz o o mなどのビデオ会議システムや、S l a c kなどのビジネスチャットを使い始めたからだ。週5回の通勤が週2~3回に減少し、あとは自宅で働くとなると、郊外の仕事部屋もある広い家に引っ越そうという人が増える。
2. このホワイトカラーの高所得層が郊外に移動していくという流れは、公共政策や経営判断の基盤を変えていく大きな地殻変動になるだろう。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年10月9日号)

古典に学ぶ

日本人は武士道をもって立つ

(解説) いまや武士道は、移してもって実業道とするがよい。日本人は飽くまで大和魂の権化たる武士道をもって立たねばならぬ。商業にまれ、工業にまれ、この心をもって心とせば、商工業においてもまた世界に勇を競うに至らるのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)